

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

官僚はどのように集められ、育てられたのか。

『近代日本の官僚——維新官僚から学歴エリートへ』

清水唯一朗（総合政策学部准教授）著  
中公新書／920円（2013年4月）



明治維新後の新政府の緊急課題は、優秀な人材を集め、行政の担い手としての「官僚」を育成することだった。この道は高等教育の確立後、日本全国に向けて開かれ、官僚は「立身出世」の到達点となった……官僚の誕生と成長の過程を描いた本書は、官僚の歴史を正面から論じ、その人材・役割・実態を明らかにする。官僚の目線から近代史をひもとくという視点の斬新さもさることながら、「当時の学生が何を感じ、何を夢見て官僚を志したのか」、その内面も丁寧に描いている。官僚制度の変遷を追い、官僚となった彼らの思いを明らかにすることで、日本の統治のあり方に迫る。

教職員執筆の新刊

●清家篤（塾長、商学部教授）著

『雇用再生—持続可能な働き方を考える』NHKブックス／1000円  
（2013年11月）

●西脇与作（名誉教授）ほか編著

『入門 科学哲学—論文とディスカッション』慶應義塾大学出版会／3000円（2013年11月）

●和田俊憲（法務研究科教授）著

『鉄道と刑法のはなし』NHK出版新書／780円（2013年11月）

●慶應義塾大学文学部編

『私』を考える—文学部は考える4』慶應義塾大学出版会／1000円  
（2013年12月）

●伊藤裕（医学部教授）著

『臓器の時間—進み方が寿命を決める』祥伝社新書／780円（2013年11月）

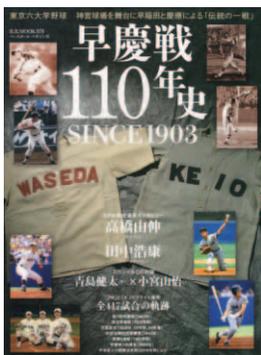
●田村次朗（法学部教授）著

『ハーバード×慶應流 交渉学入門』中公新書ラクレ／820円（2014年1月）

## 慶應義塾この一冊

『早慶戦110年史』

— SINCE 1903 —  
ベースボール・マガジン社／1429円  
（2013年10月）



1903年、早稲田大学が慶應義塾大学に送った一通の挑戦状から、早慶戦の歴史は始まった——数々の名勝負や名選手を生み、昨秋に110周年を迎えた。それを記念して発行されたのが本誌である。明治から平成までの4時代を歩んできた、天下分け目のライバル決戦。その全417試合の軌跡を振り返る。両校出身の現役プロ野球選手インタビューやOB対談など巻頭企画も充実。早慶戦をさらに楽しみたい人は必読だ。